

2025 年度第 1 回神戸市外国人市民会議 議事要旨

地域協働局地域協働課

日時	2025 年 8 月 29 日（金） 10：00 ～ 12：00	場所	神戸市役所 1 号館 24 階 1243 会議室
出席者	兵庫県立大学環境人間学部教授 乾美紀 在日本大韓民国民団兵庫県地方本部副団長 李宝彰 Tabunko Kobe 代表 ウィリアムズ・アン・エリザベス 在日本印度商業会議所 ニシャット・トラバリー ひょうごラテンコミュニティ 代表 大城ロクサナ Sewa International School 代表 ラマ・ゴレ・プリタム マサヤンタハナン 副代表 川口フローラ 神戸大学大学院法学研究科 劉子安 [敬称略] 地域協働局地域協働課（事務局） ファシリテーター 2 名		
議事	（１）2025 年度の取組み状況 （２）2026 年度以降の取組み （３）その他		

1. 開会

2. 議事

（１）2025 年度の取組み状況

- ・ 高校生世代に向けた日本語教育プログラム
 - ・ 多文化防災リーダーを育てる・活動の支援
- （事務局より資料に沿って説明）

（２）2026 年度の新たな取組み案

（事務局より資料に沿って説明。「教育」に関して身の回りで困ったできごと、各委員が所属している団体として協力できそうなこと、これからの望む形について、意見交換を実施。）

●身の回りで困った出来事

保護者の視点

- ・ 親が日本語を話せない、子どもの教育を見てあげられない場合がある。
- ・ 先生とのコミュニケーションの仕方が分からない
- ・ 日本の学校制度がわからず、進学についての知識がない
- ・ 私立高校に行くように言われるが、学費が高い

こどもの視点

- ・ 日本語や日本の文化を学ぶ機会がない
- ・ 母語と日本語の間で混乱する
- ・ 日本語以外の支援がない。母語への無関心を招く。
- ・ 自分自身の問題をシェアできない
- ・ 発達の遅れなのか言語の遅れなのか分からない
- ・ 言語、文化、習慣の違いから、いじめの対象となることがある
- ・ 自分のアイデンティティを隠したくなってしまう

その他

- ・ 学校現場において、外国にルーツがある児童への指導方法・対応が追い付いていない
- ・ 近くの中学校ではなく、夜間中学校を勧められるが、数として少ない。
- ・ 15 歳以上の子どもを中学校が受け入れてくれない

●団体として協力できそうなこと

イベント協力

- ・ 周りの日本人を母国のイベントに誘う、団体として日本のイベントへ出る

行政や学校との連携

- ・ 学校が色々な文化を知る機会として多文化イベントを学生に案内する
- ・ コミュニティが主体となり、行政とイベントの主催者を繋ぐ
- ・ 学校等に対して多文化理解のため、母国に関する出前講座を実施

その他

- ・ 自分たちのコミュニティで相談を受ける
- ・ 日本人の友だちに自分たちの悩みや苦労していることを話す、発信する
- ・ 各コミュニティの団体が同国人向け就職サポートを実施

●望む形

- ・ 外国人の子どもが母国と日本をつなぐ架け橋となる
- ・ 日本の子ども、外国の子どもに関わらず平等に接される社会
- ・ いつでも相談できる窓口の存在
 - 3者（先生、生徒、親）を支える相談場所
 - 自分の言語で困りごとを相談できる場所

<まとめ>

- ・ 両チームに共通しているのは、色々なイベントに参加したいが機会がない
- ・ 在住外国人は市における貴重な財産
- ・ 外国人コミュニティと NPO がうまく連携できていないので、行政に繋げてもらいたい
- ・ いじめの話も話題に出たが、教育の役割はすごく大事である。教員の多文化意識もつけていけないといけない。そこらいじめをなくす助けになるのではないかな。
- ・ 市内には、委員の皆さんのように「地域のために何か役に立ちたい」と考えている、貴重な人材がたくさんいる。そうした思いを、ぜひ学校や地域のイベントなどで活かしていただきたい。

以上